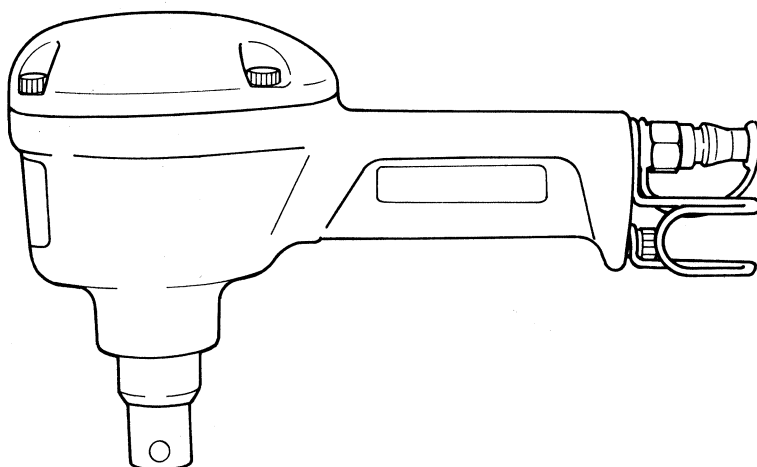
Hitachi Koki

日立ばら釘打機

NH 125AB

取扱説明書

このたびは日立ばら釘打機をお買い上げいただき，ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり，正しく安全にお使いください。
お読みになった後は，いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

HITACHI

目　次

ページ

⚠警告，⚠注意，注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」，「⚠ **注意**」，「**注**」に区分しており，それぞれ次の意味を表します。

⚠警告　：**誤った取扱いをしたときに，使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意　：**誤った取扱いをしたときに，使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお，「⚠ **注意**」に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので，必ず守ってください。

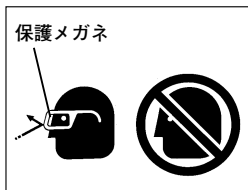
注　：**製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。**

釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために，次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に，この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上，指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警　告

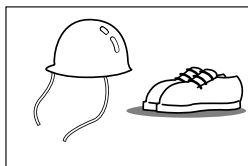
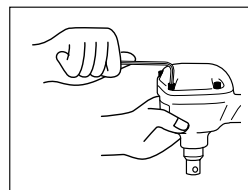
作業前

① **保護メガネを使用してください。**
- 作業中は，保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
木材・釘の破片や打ち損じの釘が目に当たると，けがの原因になります。

①
② **エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。**
本機は，エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素，アセチレン，プロパンなど）を使用すると，爆発の恐れがあり，事故の原因になります。

②
③ **機体の排気音や排気空気から耳を保護するため，防音保護具を着用してください。**

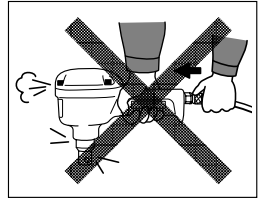
④ **作業環境に応じてヘルメット，安全靴などの防具を着用してください。**

④
⑤ **きちんとした服装で作業してください。**

⑥ **エアホースを接続する前に，次の点検をしてください。**
- ネジ類の締め付けがゆるんでいないこと。
- 損傷したり，はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで，正常に動作しない部品がないこと。
異常のあるまま使用すると，けがや機体の破損の原因になるので，異常のあるときは，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑥

⚠ 警　告

⑦ 釘を装てんする前に，エアホースを接続し，次の点検をしてください。

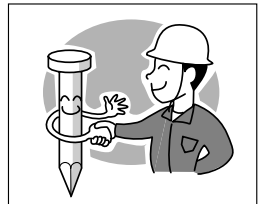
- エアホースを接続しただけで，機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
  異常のあるまま使用すると，事故やけがの原因になるので，異常のあるときは，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑦

⑧ 用途にあった作業に使用してください。

- 本機は，木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑨ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると，けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。

⑨

⑩ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外，釘打機本体やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
- 作業者以外，作業場へ近づけないでください。
  けがの原因になります。

⑪ 作業場は，いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は，事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
  暗い場所での作業は，事故の原因になります。

⑫ 作業する箇所に，内部配線やガス管など埋設物がないことを，作業前に十分確かめてください。

⚠ 警　告

作業中

① 指定の空気圧力で使用してください。

- 本機の使用空気圧力範囲は 0.39 ～ 0.69 MPa ｛4 ～ 7 kgf／cm²｝ です。この範囲内で使用してください。

0.69 MPa ｛7 kgf／cm²｝ を超えた空気圧力で使用すると，機体の破裂や損傷の恐れがあり，けがの原因になります。

② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて，誤って発射した場合，思いがけないけがにつながります。

③ 射出口付近に人体や手，足などを近づけて作業しないでください。

誤って釘が発射したり，はね返って飛んだときなど，けがの原因になります。

④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

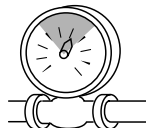
- 可燃性の液体やガス（シンナー，ガソリン，塗料，ガス類など）のある所で，本機やエアコンプレッサを使用しないでください。

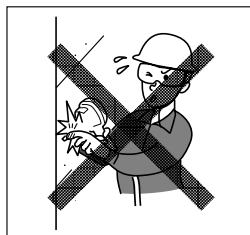
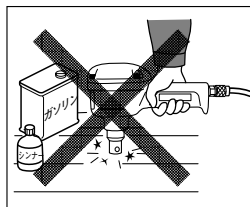
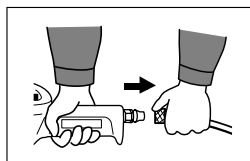
釘を打ち込むときの火花による引火や，空気といっしょに吸引圧縮され，爆発や火災の恐れがあり，事故の原因になります。

⑤ 次の場合は，エアホースをはずし，圧縮空気を抜いてください。

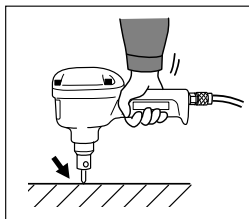
- 使用しない場合や作業中断時，使用後。
  点検・修理・調整，釘づまりの直しなどの場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。

誤って作動する恐れがあり，けがの原因になります。

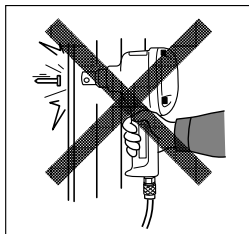
①

②

③

④

⑤

⚠ 警　告

⑥ **釘を打つときは，釘の先端を確実に対象物に当ててください。**

釘がはね返ったり，本機が反発することもあり，けがの原因になります。

⑦ **作業中はまわりの人に注意してください。**

木材・釘の破片や打ち損じた釘が当たる恐れがあり，けがの原因になります。

- 高所作業のときは，下に人がいないことをよく確かめてください。
  機体や材料を落としたときなど，事故の原因になります。

⑧ **薄い板や木材の端に釘を打たないでください。**

薄い板に打つと釘が突き抜けたり，木材の角に打つと釘がそれたりして，けがの原因になります。

⑨ **機体の反発に注意してください。**

- 硬い所に打った場合，本機がはね返ることがあるため，顔を近づけないでください。

⑩ **壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。**

打った釘が突き抜けたり，壁ぎわの釘がそれたりして，けがの原因になります。

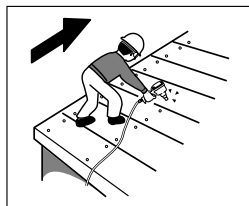
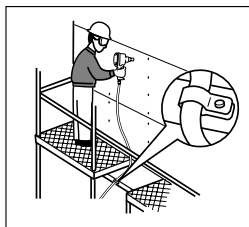
⑪ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

- 常に足元をしっかりさせ，バランスを保つようにしてください。
  転倒して，けがの原因になります。
- 高所作業のときは，釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
  けがの原因になります。

⚠ 警　告

⑫ 屋外での作業は，次のことに注意してください。

- 高所作業の場合，エアホースは作業場所の近くに固定してください。
  不意にエアホースを引っかけたりした場合，けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは，下から上に向かって前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると，足を踏みはずす恐れがあり，けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは，前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると，足をとられ，けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは，上から下へ作業してください。

⑫

⑬ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 釘打機を使用する場合は，取扱方法，作業のしかた，まわりの状況など，十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは，使用しないでください。

⑭ エアホースをつかんで本機を移動しないでください。

⑮ 誤って落としたり，ぶつけたときは，機体などに破損や亀裂，変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり，けがの原因になります。

⑯ 使用中，機体の調子が悪かったり，異常を感じたときは，直ちに使用を中止し，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると，けがの原因になります。

⚠ 警　告

作業後

① 作業後は，エアホースをはずしてから，釘を抜き取ってください。

釘を残しておくと，次に使用するときなど，誤って作動した場合に，けがの原因になります。

② 本機やエアコンプレッサ，エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

③ 釘打機は，注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために，釘打機は常に手入れをし，清潔に保ってください。
- 付属品の交換は，取扱説明書に従ってください。

④ 使用しない場合は，きちんと保管してください。

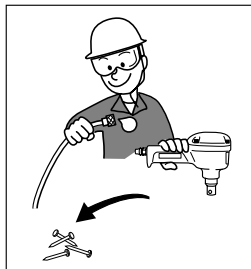
- 乾燥した場所で，子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

⑤ 部品をはずしたり，改造をしないでください。

安全性が損なわれ，けがの原因になります。

⑥ 釘打機の修理は，専門店に依頼してください。

- 修理は，必ずお買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  修理の知識や技術のない方が修理すると，十分な性能を発揮しないだけでなく，事故やけがの原因になります。

①

ばら釘打機の使用上のご注意

先に釘打機として共通の注意事項を述べましたが，ばら釘打機として，さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① 使用前にガイドの動きを確認してください。

- エアホースを接続しないで，ガイドの先端を木材などに押し当て，ガイドが確実に動くか確認してください。
  ガイドの動きが不完全のまま使用すると，釘がはずれることがあり，けがの原因になります。

② エアホースを接続するときは，次のことに注意してください。

- ガイド内に釘が入っていないことを確認してください。
  誤って釘が発射する恐れがあり，けがの原因になります。
- 釘の出口は下に向け，射出口付近に人体，手足がないことを確認してください。
- ガイドの先端を台や床などに載せないでください。

③ 本機の頭部および胴部を金づちがわりに使用しないでください。

④ 釘の装てんは，慎重に行ってください。

- 釘を釘ガイドに装てんするときは，釘の先端を持たずに軸を持ってください。
  誤って作動し，指に打つような，けがの原因になります。
- 釘をガイド内に装てんするときは，釘がピストン先端を押さないように注意してください。
  釘をガイド内に必要以上に入れると，ピストン先端を押し，作動する恐れがあり，けがの原因になります。

⑤ 指で釘を保持して打込むときは，次のことに注意してください。

- 釘を打つ順序は，釘の先端を打ち込み対象物に当て，その後ガイドを釘の頭に挿入してください。
  確実に当てていない場合や，釘頭を先にガイド内に入れると，釘がはね返ったり，誤って作動し釘が発射した場合，けがの原因になります。

⑥ 長時間の釘打作業は避けてください。

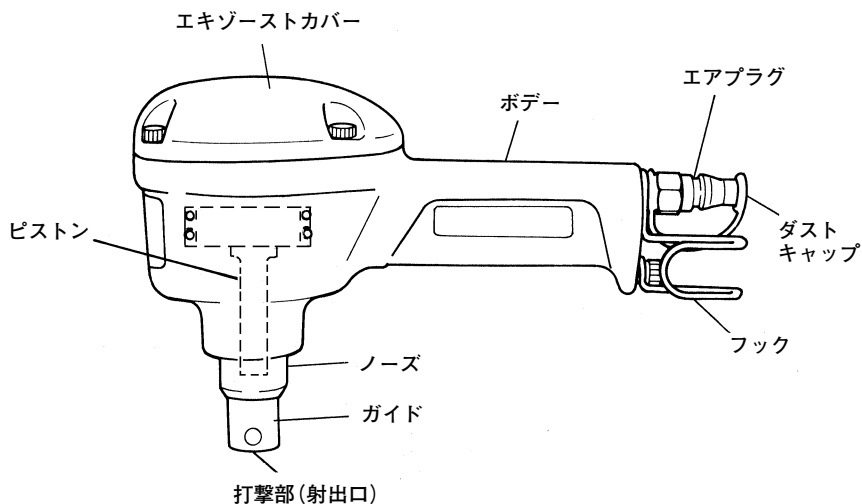
- 本機での釘打作業はできるだけ短時間にしてください。また，連続作業は避け，間に適当な休止時間をもうけてください。

各部の名称

図　1

仕　　様

動　力　形　式	ピストン往復動式
使用空気圧力	0.39～0.69 MPa {4～7 kgf／cm²}
能　　力（使用釘）	長さ50㎜から125㎜までの鉄丸釘および 長さ50㎜から125㎜までの枠組壁工法用太め鉄丸釘
製品の大きさ	長さ216㎜×高さ137㎜×幅82㎜
製　品　質　量	1.2 kg
使用エアホース（内径）	6㎜以上

釘の選び方

本ばら釘打機に使用する釘は，次の寸法に合った釘です。

頭　径：6.6 ～ 10.3 ㎜
軸　径：2.8 ～ 4.6　㎜
全　長：　50 ～ 125　㎜

注
- **上記寸法以外の釘は，使用しないでください。**
  ガイドをいためたり，斜めに打込まれたりすることがあります。
- **焼入釘は使用しないでください。**

使用できる釘の寸法を下表に示します。

<table>
<tr><th>釘　形　状</th><th colspan="2">名　　称</th><th>種　類</th><th>L寸法（mm）</th><th>d寸法（mm）</th><th>D寸法（mm）</th><th>色</th></tr>
<tr><td rowspan="13">D
L
d</td><td colspan="2" rowspan="7">鉄　丸　釘
（JIS A 5508）</td><td>N　50</td><td>50</td><td>2.75</td><td>6.6</td><td rowspan="7">——</td></tr>
<tr><td>N　65</td><td>65</td><td>3.05</td><td>7.3</td></tr>
<tr><td>N　75</td><td>75</td><td>3.40</td><td>7.9</td></tr>
<tr><td>N　90</td><td>90</td><td>3.75</td><td>8.8</td></tr>
<tr><td>N 100</td><td>100</td><td>4.20</td><td>9.8</td></tr>
<tr><td>N 115</td><td>115</td><td>4.20</td><td>9.8</td></tr>
<tr><td>N 125</td><td>125</td><td>4.60</td><td>10.3</td></tr>
<tr><td rowspan="6">枠組壁工法用釘</td><td rowspan="4">太め鉄丸釘
（JIS A 5551）</td><td>CN 50</td><td>50</td><td>2.87</td><td>6.8</td><td>緑　色</td></tr>
<tr><td>CN 65</td><td>65</td><td>3.33</td><td>7.1</td><td>黄　色</td></tr>
<tr><td>CN 75</td><td>75</td><td>3.76</td><td>7.9</td><td>青　色</td></tr>
<tr><td>CN 90</td><td>90</td><td>4.11</td><td>8.7</td><td>赤　色</td></tr>
<tr><td rowspan="2">接合金物用釘</td><td>ZN 65</td><td>65</td><td>3.33</td><td>7.1</td><td rowspan="2">——</td></tr>
<tr><td>ZN 90</td><td>90</td><td>4.11</td><td>8.7</td></tr>
</table>

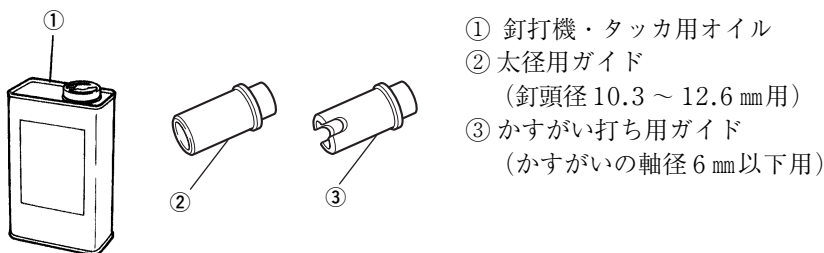
注
釘頭の大きさに注意してください。
- **市販の丸釘は，頭の大きいものが混入している場合があります。**
  ガイドの中に釘頭が入らないものは使用しないでください。
  なお，釘頭の大きい釘（頭径 10.3 ～ 12.6 ㎜）を使用するときは，別売部品の太径用ガイドをご使用ください。

標準付属品

① 保護メガネ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 個
② 油さし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 個
（釘打機・タッカ用オイル入り）

別売部品

図　2

① 釘打機・タッカ用オイル
② 太径用ガイド
　(釘頭径10.3～12.6㎜用)
③ かすがい打ち用ガイド
　(かすがいの軸径6㎜以下用)

用　　途

○ 枠組壁工法(枠組壁工法に用いる枠組材への釘打ち)
○ 木造建築用途全般(たる木，根太などの固定)

作業前の準備

○騒音防止規制について
騒音に関しては，法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう，規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ，しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1．エアホースの準備………

　本機の使用エアホース内径は6㎜以上です。エアホースをエアコンプレッサ側にしっかり接続してください。

注 • **エアホースの長さは，30 m以内のものをお使いください。エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。**

2．エアコンプレッサ内のドレンを除去する………

水や油が内部にたまりますと，さびが発生したり故障の原因になります。ご使用前後には，エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて，内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

3．釘の準備………

釘打ち作業の用途にあった釘を準備してください。(10ページ参照)

4．安全点検………

⚠ 警　告

- **子供など作業者以外は近づけないでください。**
- **ネジ類の締め付けがゆるんでいないことを，十分に点検してください。**
- **損傷したり，はずれている部品や，さび付きなどで，正常に動作しない部品がないことを点検してください。**

19ページの「保守・点検」を参照し，必ず行なってください。

ご使用前に

⚠ 警　告

- **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**

1．空気圧力の確認………

⚠ 警　告

- **本機の使用空気圧力の範囲は 0.39 ～ 0.69 MPa {4 ～ 7 kgf／cm²} です。この範囲内で使用してください。**

空気圧力は，釘打ち込み能力(釘径，釘の長さ，木材の堅さなど)に合わせて，0.39 ～ 0.69 MPa {4 ～ 7 kgf／cm²} の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.39 MPa {4 kgf／cm²} 未満または 0.69 MPa {7 kgf／cm²} を超えますと本機の性能，寿命，安全に影響しますので，エアコンプレッサの空気圧力，容量，配管に十分考慮が必要です。

2．給油について………

注 **• 使用する時は必ず給油してください。油がきれますと本機の動作が悪くなります。**

○ 本機を使用する時は，エアーセット（21ページ参照）をエアコンプレッサと釘打機の間に取付けてください。エアーセットからの給油は各部の動作が円滑になるとともに本機の寿命も長くなり，またさびの防止にもなります。
オイラーの油滴下量は10本打込み毎に1滴の割合で調整してください。

○ オイラーを取付けない場合は，必ず1日に2回以上，作業の前後に2mL｛2ｃｃ｝程度の油をエアホース取付口（釘打機のエアプラグ）から入れてください。
作業前の油は潤滑油となり作業後の油はさび止めとなります。

注 **• 作業前の場合，給油直後空気を通すと，しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散るので，油がかかっても支障のない所で1本釘を打ってから作業してください。**
• 作業後の場合，注油後1本だけ釘を打ちますと油が内部に行き渡ります。

○ 油は，付属の油をご使用ください。その他，市販で使用できる油を21ページに示しましたので，これらの油をお使いください。なお，混用は避けてください。

3．エアホースを接続する………

⚠ 警　告

本機にエアホースを接続するときは，次のことに注意してください。
• ガイド内に釘が入っていないことを確認する。
• ガイドの先端を台や床などにのせない。
• 射出口を人体に向けない。

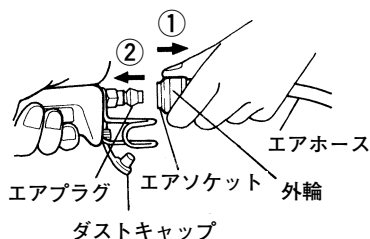



図　3－1

本機にエアホースを接続する場合はエアプラグからダストキャップをはずし，図3－1のように，①エアソケットの外輪を引き，②エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。
（手を離すと外輪は戻ります。）

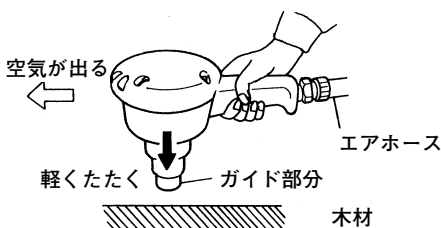



図　3－2

注　• エアホースを接続したときに，前方の排気口から空気が出ることがあります。
このときは，木材などに本機のガイド部分を軽くたたいてください。(図３－２)
空気が止まり，作動可能な状態になります。

使　い　方

⚠　警　告

- 作業中は，必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は，まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手，足などを近づけて作業しないでください。
- 本機の頭部および胴部を金づちがわりに使用しないでください。

注　• 低温時に使用すると，機体の動作が悪くなることがあります。

1. 釘の打ち方………

マグネットで釘を保持して打つ場合

⚠ 警　告

- 釘をガイド内に装てんするときは，釘の先端を持たずに軸を持ってください。
- 釘をガイド内に装てんするときは，釘がピストン先端を押さないように注意してください。

釘長さ 50 ～ 90 ㎜の釘はマグネットで釘を保持して打つことができます。

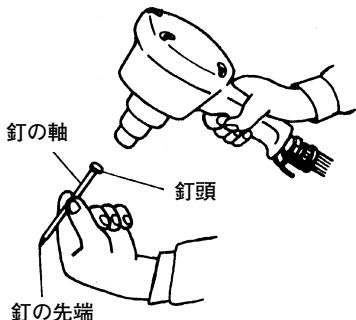



図　4

(1) 釘の軸を指で軽く持ち，釘頭をガイド内にさし入れ，図５のようにマグネット付近に釘を吸着保持してください。（図４，５）

(2) 次に釘の先端を打つ所に当て，本体を押し付けて，釘を打ち込んでください。（図６）

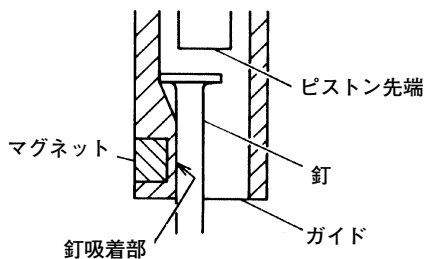



図　5

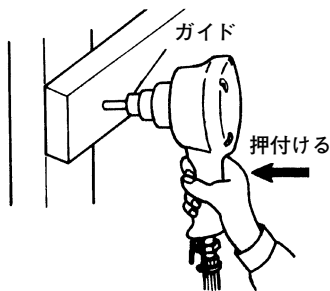



図　6

指で釘を保持して打つ場合

⚠ 警　告

- 指で釘を保持して打ち込むとき，釘を打つ順序は，釘の先端を打ち込み対象物に当て，その後ガイドを釘の頭に挿入してください。

(1)

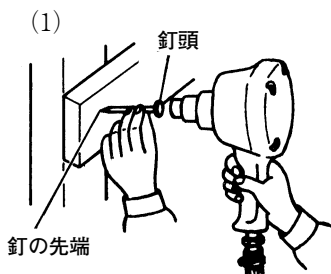



図　7

(1) 釘の軸を指で軽く持ち，釘の先端を打つ所に当てます。(図7)

(2)

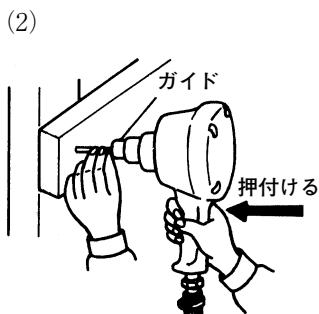



図　8

(2) ガイドの中に釘頭を入れて，釘がある程度打込まれ安定するまで本体を軽く押し付けます。(図8)

(3)

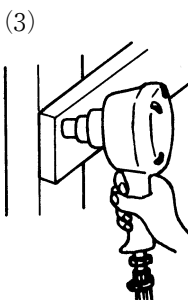
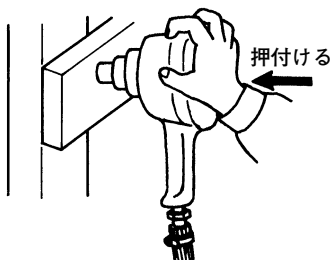



図　9

(3) 釘がある程度打込まれ安定したら釘から指をはなし，釘頭が面一になるまで本体を押し付けます。(図9)

2．長い釘，硬い木材の場合………

図　10

長い釘，硬い木材の場合は，図 10 のように本機の頭部を持つと楽に作業ができます。

3．能率のよい作業………

(1) 本機は低い圧力での作業や硬い木材，長い釘を使用する作業の場合に打込み時間が長くかかることがあります。このような場合は，使用空気圧力を 0.59 ～ 0.69 MPa {6 ～ 7 kgf／cm²} に調整すると能率のよい作業ができます。

(2) 本体を強く押し付けた場合や連続して使用した場合に，エアコンプレッサの圧力が下がって動作しなくなることがあります。このような場合は，エアコンプレッサの圧力が十分上がってからご使用ください。

4．空打ちのご注意………

注 **• 釘を打ち込まないで機体を押し付け動作させた場合や，打ち込んだ後でも機体を押し続けて動作させた場合を「空打ち」といいます。空打ちを続けると，各部に影響を与えるので，空打ちをしないようご注意ください。**

5．作業中断時，使用後は………

⚠　警　告
• 使用しない場合や作業中断時，使用後はエアホースをはずしてください。 **• 作業後は，釘を抜き取ってください。**

注 **• 作業後は，エアコンプレッサの空気を抜いて，空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると，タンク内のドレンが除去されると同時に，圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。**

6．別売部品の使い方………

⚠ 警 告
• 太径用ガイド，かすがい打ち用ガイドを取付ける場合は，必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターなどにお申しつけください。

(1) かすがい打ち用ガイドの使い方

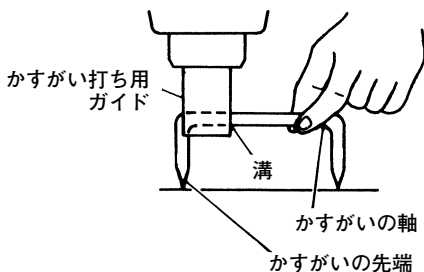



図 11

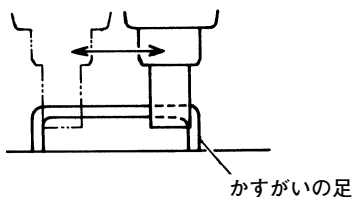



図 12

ガイドを取りはずし，かすがい打ち用ガイドに交換しますと，軸径６㎜以下のかすがいを打つことができます。

○ かすがいの軸を指で軽く持ち，かすがいの先端を打つ所に当てます。
次にガイドの溝にかすがいを入れ，かすがいが安定するまで本体を軽く押し付けます。（図11）

○ かすがいがある程度打込まれ安定したら釘から指をはなし，左右に本機を移動しながらかすがいの両方の足を打込みます。（図12）

保守・点検

⚠ 警　告

- **釘づまりを直すときや点検・手入れの際は，必ずエアホースをはずしてください。**
- **エアホースを接続しないで，ガイドの先端を木材などに押し当て，ガイドが確実に動くか確認してください。**

1．各部取付けネジの点検………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないか定期的に点検してください。
ゆるんでいるところがある場合は，締めなおしてください。
ゆるんだままお使いになりますと，けがなど事故の原因になります。

2．ごみ・ほこりの防止………

○ ごみやほこりが内部に入らないよう，エアホース接続の際は，口元のごみをふき取ってください。
○ 作業前後の給油において，油の中にごみがあると給気穴をふさいだり摺動部をいためる原因となりますので，清浄な油をご使用ください。
○ 使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ，本体内にごみが入るのを防いでください。

3．ガイドの点検………

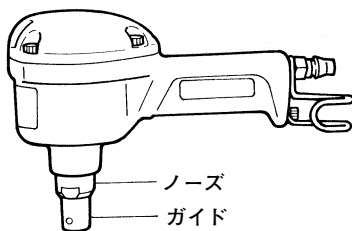



図　13

ガイドの摺動部はときどき掃除し，注油してください。（図 13）

本機を木材などに押し付け，ガイドの動作がスムーズであるかどうか確認してください。

注油することにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

ガイド内の釘吸着部に鉄粉等が付着すると釘吸着力が低下しますので，ときどき布や粘着テープなどで取り除いてください。

4．作業後の保管は………

注 • **エアプラグにダストキャップをさし込むときは，本機をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。**

○ 作業後は内部にごみやほこりが入らないよう，ダストキャップをエアプラグにさし込み，保管してください。
○ 長期間使用しない場合は，さび防止のため作業後に行なう空気取入口からの給油とともに，鉄の部分（ガイド，ノーズ）には油をうすく塗布してください。
○ 気温が下がると，ゴム製部品の収縮で空気が漏れ，朝の始動が悪くなる場合がありますので，暖い場所においてください。
○ お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサ出力と作業の速さ

エアコンプレッサの出力が小さい場合や使用空気圧力が低い場合は，打ち込みに要する時間が長くかかります。

下表は日立釘打機用ハンディコンプレッサＥＣ６ＳＡ１および日立ベビコンを使用して，90㎜釘を松材に１分間で打ち込めるおおよその本数を示したものです。

使用空気圧力を0.59～0.69 MPa ｛6～7 kgf／cm²｝に調整しますと，能率のよい作業ができます。

この表を目安に適切エアコンプレッサを選定してください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 / エアコンプレッサおよび出力	0.39～0.49 MPa ｛4～5 kgf／cm²｝	0.49～0.59 MPa ｛5～6 kgf／cm²｝	0.59～0.69 MPa ｛6～7 kgf／cm²｝
ＥＣ６ＳＡ１	5～7本	7～9本	9～12本
0.4 kW	4～6本	6～8本	8～10本
0.75 kW	6～9本	9～12本	12～16本

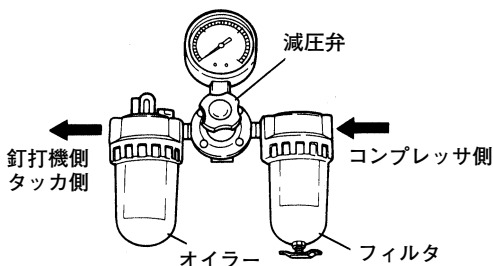
釘長さが90㎜より短いときは，上記に示した本数より打ち込み本数が多くなり，長いときは打ち込み本数は少なくなることがわかります。

オイラー・フィルタ・減圧弁 ……（エアーセット）

工具を最適の条件でお使いいただき，工具を長持ちさせるためオイラー・フィルタ・減圧弁をご使用されるようおすすめします。

ご使用される際，エアーセットから本機までのエアホースの長さは10ｍ以内としてください。

（日立釘打機用ハンデイコンプレッサEC 6SA1には取付きません。）

図　14

オイラー……清浄で適量な潤滑油を自動的に供給できます。油は，付属の油のご使用を推奨いたします。その他使用可能な油を下記に示します。10本打つ間に1滴落ちる程度に調整してください。

フィルタ……圧縮空気中の水分，ごみなどを取り除きます。

減 圧 弁……エアコンプレッサの圧縮空気を必要な一定圧力に調整して使用できます。

使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は，日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		――――――――〔別途販売しております〕
その他のオイル〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W，SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄　ISO　VG32～68（＃90～＃180）

注　• **潤滑油は必ず上表の油を使用してください。不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。**

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル） ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル） ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル） ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル） ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

● 電動工具ご相談窓口 ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00～午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

508
部品コード　C99008407　N